分野別懇談会について

（１）概要

町内の各分野（水産、農林、商工、観光、建設、防災、保健、福祉、子育て、コミュニティ、教育、文化）で活躍されている人（参加者 24 人）を対象に、昨今の情勢や現場のニーズなどを伺ったもの。

（２）主な意見

【水産分野】

（気候変動の影響）

温暖化により海水温が上昇し、定置網漁業の魚種や漁獲量が変化。養殖漁業では、特にホヤの生育が厳しく、ホタテも厳しい状況である。ホタテ種苗の９割が死亡するケースもある。

（価格の低迷）

福島県での処理水放出後、アワビの価格が大幅に下落。特に二号品は売れず、収益が悪化している。

（資源管理の取組）

アワビやナマコの放流が継続的に行われ、資源の回復を試みている。町の補助金による支援が続いているが、継続してほしい。

（漁業者の減少）

漁業者や漁協の部員数が減少し、高齢化が進行。若い世代への技術継承と漁業従事者の確保が求められている。

【農業分野】

（米の生産と消費）

町内の米の生産量が消費量に対し不足。自給率向上のための施策が必要。

（シイタケ生産の課題）

シイタケ生産は原発事故の影響を受け、放射線検査が継続している中、生産者の高齢化や物価高騰を価格に転嫁できるかが課題。

（農業の地域計画）

守るべき農地と、そうでない農地を整理して農地を守っていく必要がある。

【商工分野】

（人口減少の影響）

人口減少により、商工会の会員数が減少。後継者不足が顕著。

（賃金上昇の影響）

最低賃金の上昇により、事業継続が困難になる中小企業が増加する恐れがある。

（道の駅開業の影響）

道の駅の開業により商業エリアへの車の流れが変化しているように感じる。

【観光分野】

（オランダ島の影響）

浮桟橋の破損により観光客が減少した。ただし、費用対効果で考えると、あまりオランダ島には依存せずにシンボル的なものとして活用したほうがいいのでは。

（観光ガイドの人材不足）

観光船の船長や語り部の高齢化が進み、運営の継続が不安視されている。

（イベントによる集客）

祭り期間の宿泊者数は増加したが、祭り期間以外の誘客策が必要。通過型の観光から、夜のイベントや早朝の定置網体験などによる宿泊までつなげる取り組みが必要。

（新たな観光資源）

浦の浜海水浴場やオートキャンプ場の整備が進めば、新たな観光資源として期待できる。

【建設分野】

（公共工事の減少）

東日本大震災以降、公共工事が増加したが、近年は公共工事が減少している。建設業者は、災害時や除雪時の担い手としても必要となるので、公共投資額は維持していただきたい。

（公共工事の発注先）

公共工事の発注先は、地元を優先していただきたい。

【防災分野】

（消防団員の減少）

人口減少に伴い、消防団員が減少している。

（防災訓練）

防災訓練の方法を工夫し、参加者を増やす取組が必要。

（避難計画の検討）

避難行動要支援者や、自力で移動できない方の避難を支援するための計画の検討が必要。

【保健・福祉分野】

（人材不足）

ホームヘルパーや看護師の求人をしても、応募が少ない。ヘルパー養成研修の受講者に、いかに町内に就職してもらえるかが重要。

（会員数の減少）

身体障害者協会の会員数が減少している。会員勧誘の協力をいただきたい。

【子育て分野】

（少子化）

保育料や給食費の無償化など、支援は充実しているものの、少子化が進んでいる。

（保育士不足）

早朝・夕方の保育士の確保が課題であることから、子育て支援員の育成が進められている。

【コミュニティ分野】

（空き家の増加）

高齢化や人口減少に伴い、空き家が増加。管理されていない空き家の影響により、周辺の家屋への被害も懸念される。空き家対策の更なる検討が必要。

（民生委員の不足）

仕事量に対して活動費が低く、担い手が不足。高齢者の見守り活動に支障をきたす恐れがある。

（地域活動の課題）

自治会活動や地域の清掃活動への参加者が減少している。

【教育分野】

（部活動の指導者不足）

教員の働き方改革により、教員が部活動に関わらなくなってきている。地域への移行が求められるが、指導者が確保できていない状況が続いている。

（PTA 活動の低迷）

保護者の学校行事への関心が低く、総会などの参加率が低いように見受けられる。

【文化分野】

（施設の予約方法）

文化活動の参加者は高齢者が多いことから、参加者が利用しやすいよう施設の予約方法等、工夫していただきたい。

（郷土芸能の継承）

郷土芸能の後継者不足が懸念される。

（文化施設の整備）

土器や様々な資料を保管展示する施設を整備してほしい。